



# 丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く ～

令和2年6月30日(火) No. 4

横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

## 人との距離は空けて 心の距離は縮めて

副校長 野村 光

6月15日の全校登校から2週間が過ぎました。朝、登校してくる子どもたちを迎えるために正門に立っていると、マスク越しに子どもたちの挨拶が返ってきます。正門まで見送ってくださる保護者の方や、登校時刻に合わせて子どもたちの家を出る時間を調整していただいているご家庭のご配慮等、一日を安心・安全にスタートするための様々なご協力のあることが直に伝わってきて、改めて感謝の思いをもつと共に、日々の取組への励みにもなっております。学校では、油断をすると密になりがちな登校時には、昇降口にケンステップを利用した印を付け、友だちとの距離を置くように工夫しています。しかしながら、この方法も完全ではないかもしれません。感染防止に関しては、今後も様々な工夫と改善を重ね、子どもたちの安全な環境整備に努めてまいりたいと思います。

「横浜市立学校の教育活動再開に関するガイドライン」に則り、7月1日からいよいよ通常通りの授業が開始されます。給食も再開します。新型コロナウイルスの感染リスクを最小限に抑えつつ、できる限り三密を防ぐように配慮しながら、日々の活動を進めているところです。先日の放送朝会では、全校の子どもたちへ話をする機会がありました。「むんむん(密閉)」「ぎゅうぎゅう(密集)」「がやがや(密接)」という表現で三密について説明をしました。まだ、しばらくはこれを合言葉に生活を送ることになりそうです。

感染防止のため、教職員の研修も様々な制約の中で行われています。職場を離れずオンラインでやり取りを行うという取組もそのひとつです。先日、職員一人一人がタブレットを持ち、オンライン会議のやり方について校内研修を実施しました。学校の生活様式も確実に変わってきています。ソーシャルディスタンス、マスクの着用、リモート会議…半年前にはおよそ想像もつかなかった日常がやにわに始まりました。これからはICT環境がさらに整備され、タブレット端末等を活用した教育活動が進むことも想定されます。これまでの常識にとらわれず、柔軟な対応が求められていることを実感しています。子どもたちへも、「大きな声を出さないように」「友だちと向かい合って話をしないように」等々…「相手との距離を空ける」という、今までの学校生活にはなかった生活様式をスタンダードにした指導が続きます。しかし、感染予防に万全を期しながらも、人と人との心の距離は縮めていけるように、職員一丸となって努力していきたいと思っております。

今年度は、学校創立40周年記念の年です。この事業に関してはPTAの保護者と職員で構成する「40周年実行委員会」が中心となり、様々な取組の企画・運営を進めているところです。7月8日には、校庭に描いた人文字を航空から撮影します。図案は子どもたちの応募作品の中から決定しました。撮影当日はできるだけ暑くない時間帯を考慮し、9時12分頃、学校上空に撮用のセスナが到着する予定になっております。

